

「仮設にいと息がつまる…。壊れていても自宅にいる時は心が休まる」と語るのは岩手県大船渡市在住の及川宗夫さん。海から 250 メートルほどの場所に位置する及川さんの自宅は、天井まで津波が襲い、壊滅的な被害を受けました。辛うじて梁や柱などが被害を免れ、現在少しずつ修繕に取り組んでいます。

ハビタット・ジャパンが及川さんに出会ったのは、及川さんの現在の住まいである小中井仮設をたずねた 2011 年秋。大船渡市で被災家屋の修繕・修復支援を行うため、ニーズ調査をしていた時でした。調査後、及川さんの自宅が修繕可能な家屋とわかり、修繕にかかる費用の一部を支援することとなりました。ハビタットの支援により、及川さんは津波で壊れた窓を取り換えることができました。窓が付いたことが励みとなり、及川さんは現在、他の箇所も少しずつ修繕するため、仮設から自宅へ通っては作業を進めています。



ハビタットの支援で新たに
取り付けられた窓の前に立つ及川さん



ボランティアと一緒に
作業に参加する及川さん

一方、当時支援委員をしていた及川さんは、仮設住宅の生活環境改善のため積極的に働きかけていました。「物をしまっておく場所がない、窓枠が地面から高くて洗濯物を干すのも危ない」など、住民が抱える問題は様々でした。そんな中、ハビタットは小中井仮設に、住民が共同で使用できる倉庫、各世帯に屋外用の縁台と花台を作成、設置しました。住民とボランティアが力を合わせて建設した倉庫はペイントされ、今では『西の蔵』と呼ばれて地域のランドマークとなっています。

「人は家のことが安心できないと、何もできないと思います。震災後避難所で生活し、まずは地域の皆で安心して住める仮設住宅への移転を目標にしました。その後、ご協力を得て仮設の生活の改善を行い、少しは安心できるようになった今だからこそ、その次である、『家に戻る』ということが考えられると思います」と及川さん。次なる目標は、小中井仮設の住民皆で安心して暮らせる家に戻り、またそこでコミュニティを築いていくことです。



完成した『西の蔵』の鍵を
ボランティアから受け取る及川さん